

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	あゆみん上新庄		
○保護者評価実施期間	R7年1月18日		~ R7年2月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	R7年1月18日		~ R7年2月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	時間設定による個別療育 (空間分け、スケジュールの視覚化)	狭い空間で衝立を利用し、集中して取り組む環境を作っている。	各々、重複しないよう、集中して療育に取り組める環境時間設定を行う。
2	行事・イベントを通じて、日常生活のスキルを養う。	お買い物ごっこや制作などを通じて、社会的ルールや手足の巧緻性を高めている。	行事が固定化、マンネリ化しないように、職員間でアイデアを出し合い、工夫していく。
3	職員間及び保護者との情報共有がとれている。	連絡帳や送迎時での聞き取りから情報を取りまとめ、共有している。	会議や保護者との面談を設定している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	空間が狭く、活動に工夫を必要である。	市内中心部で利用のしやすさはあるが、建物の構造上、空間に限りがある。	狭い空間の中でも色付きマットや衝立を活用し、工夫している。
2	地域での交流会や父母の会が難しい。	以前は設定していたものの、コロナ禍より活動できていない状況が続いている。	保護者が参加できる行事・イベントを設定できるように努める。
3			